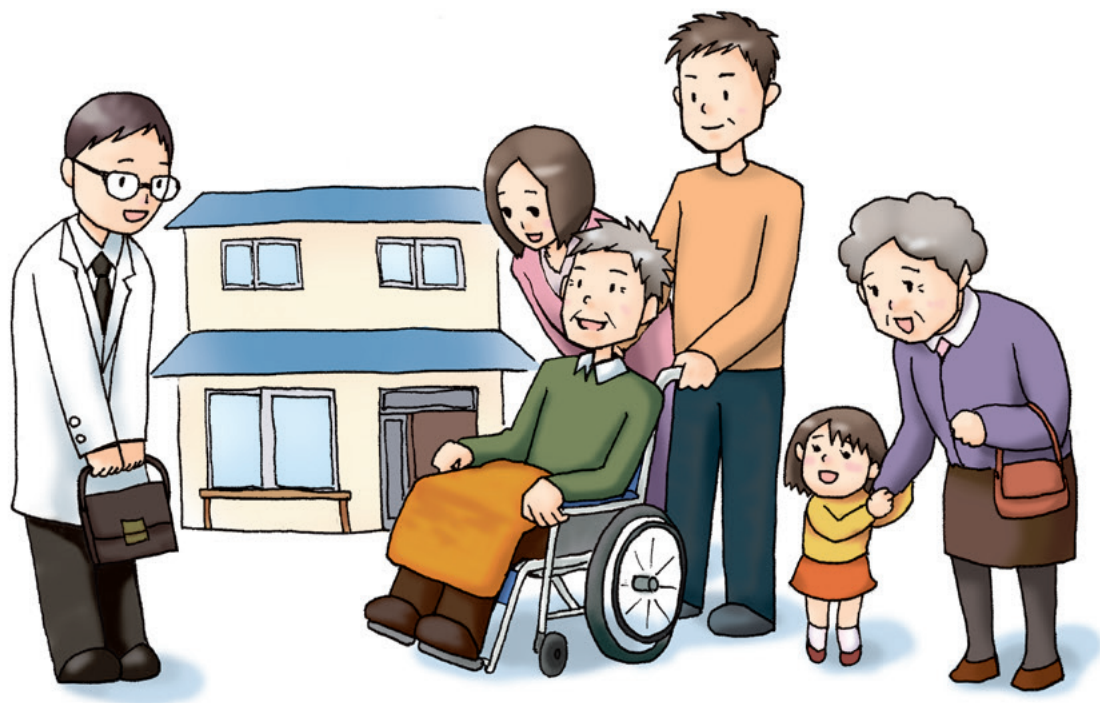


ご自宅 ↑ でご家族を 看取られる方へ

これからの過ごし方について

.....



ご説明を受けた方

説明をした人

ご説明した日

年

月

日

札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会

とよひら・りんく

はじめに

.....

さまざまなご苦労を乗り越えられ
療養を続けてこられたことと思いますが、
病状の変化から少しずつお別れが近づいていることが、
ご家族のみなさまにもお判りいただけるかと思います。

人生の最期の時まで、住み慣れたご自宅で、
ご家族や親しい方々に囲まれて
ゆったりとお過ごしいただくために、
これからの症状の変化にどのように対処すればいいのか
ご心配もおありかと思われます。

できる限り落ち着いた、ゆったりとしたお別れができますように、
本冊子をご覧いただきながら
心のご準備をしていただけたらと思います。

これから _____ さんに起こるであろう

症状とその対応について書いてあります。

起きうることをわかることで、

いよいよ様子が変わってきた時の心配が、

少しでも減ってくると思います。

わからないことや、疑問に思ったことがありましたら

どうぞ、ご遠慮なく

_____ に、お話しください。

(連絡先： - -)



これからどのように
過ごしていきたいですか？

これからの変化と対応について

患者様の病状の変化についての対応は、「これからどうなるのでしょうか」の項目(p4-6)をご覧ください。また、患者様の病状が進んできた場合のご家族の対応は「こんなときどうしたらいい？」の項目(p7-8)をご参照ください。

これから
どうなるの
でしょうか

p4-6

1. 食事について
2. 睡眠について
3. 排泄について
4. 言動・行動について
5. 体温について
6. 呼吸について

こんなとき
どうしたら
いい？

p7-8

点滴について考えるとき

心臓や呼吸が止まっているのに気付いたとき

介護者の方が
疲れてしまった
ときは…

p9

疲れてクタクタになってしまった

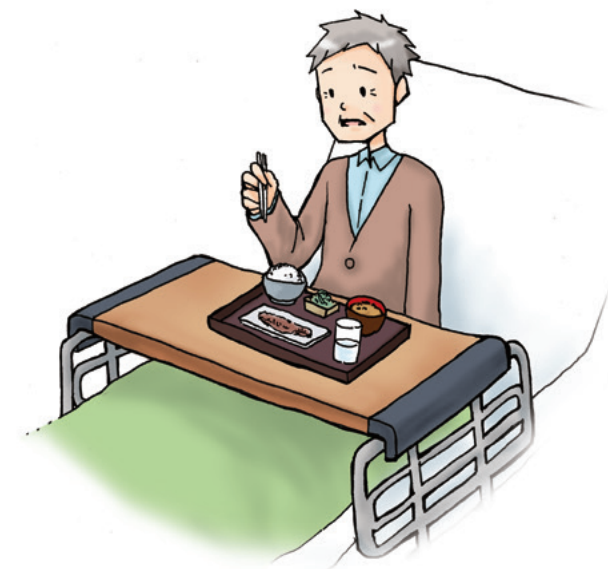
在宅か入院か

これからどうなるのでしょうか

1. 食事について

食事や水分をとる量が、減っていきます。
食べたり、食べなかったりと不規則になる
事もあります。

氷や冷水、さっぱりしたものが好まれます。
無理に食べさせたり、勧めたりせず
ご本人の気持ちを大切にしましょう。



2. 睡眠について

だんだんと眠っているように見える時間が
多くなっていきます。

無理に起こしたりせず、眠らせてあげて
ください。

意識がうすれ、呼んでも返答がなくなり
ます。

一番最期まで耳は聞えています。
たとえ返事がなくても、そばにいて穏やか
に話しかけることでご本人も安心されます。



3. 排泄について

おしっこ量が少なく、濃くなってきます。

様子をみてください。

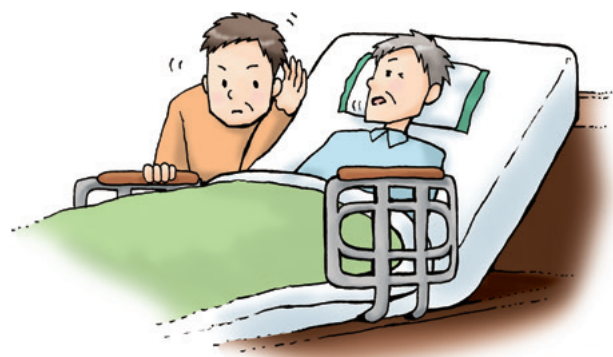
不安を感じたときは、ご相談ください。



4. 言動・行動について

つじつまの合わないことを言ったり、手足を動かすなど落ち着かなくなることがあります。(使用している薬や)脳血流量低下が主な原因です。

危険がなければ、見守ってあげてください。
ご本人が安心してできるように背中や手足をさするの也不错いでしょう。



5. 体温について

手足の先が冷たく青ざめ、脈が弱くなります。血圧が下がり循環が悪くなるためです。

手を触れてさする事も良いでしょう。



6. 呼吸について

のどもとでゴロゴロという音がすることがあります。だ液をうまく飲み込めなくなり、喉の奥に溜まり、振動して音が出ています。ご本人は眠っている事が多いので、苦痛を感じることは少ないようです。

ティッシュで拭いたり、

口の中をきれいに保ちましょう。

顔を横向きにしたり、上半身を少し上げると良くなる事もあります。



呼吸のリズムが不規則になったり、30秒前後呼吸を休むこともあります。残された力を使って呼吸をするために、肩や顎を使って呼吸します。

ご本人は苦痛を感じていないので静かに見守りましょう。残された時間は少なくなっています。



点滴について考えるとき

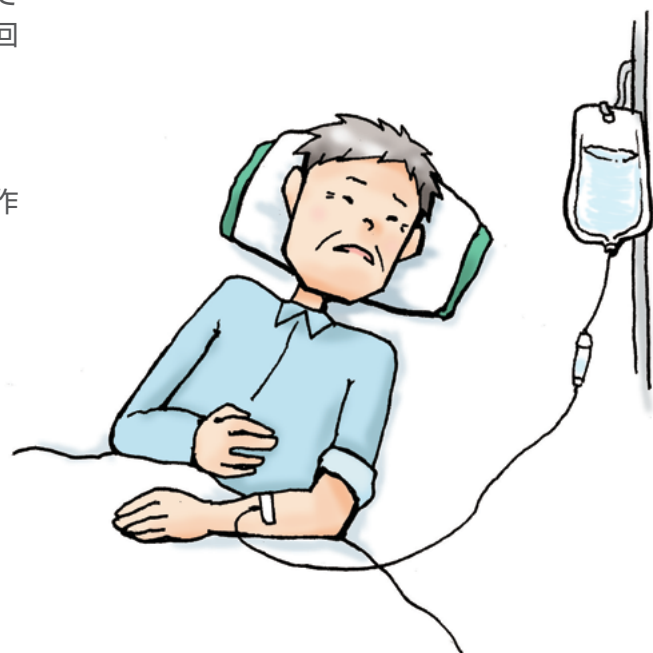
◆病状が進んでくると、病気そのもののために、食事や水分をとる量が少なくなってきました。ご家族もつらいお気持ちやご心配になられると思います。

「脱水になったら苦しむのでは・・・?」「病気のためでなく、食べられないために衰弱してしまう」など、よく心配される事ですが、**【脱水傾向にあることが苦痛の原因になる】ことはほとんどありません。**

◆むくみや胸水、腹水があるときは点滴を減らすことが**つらい症状を和らげる事になる場合があります。**

◆点滴などで水分や栄養分を入れたとしても、うまく利用できないので、からだの回復にはつながりません。

◆逆に、おなかや胸に水がたまるなどの副作用が出る場合があります。



心臓や呼吸が止まっているのに気付いたとき

◆まず、主治医や訪問看護師に連絡しましょう。

◆全身の状態が悪くなった患者さんの場合、人工呼吸や心臓マッサージなどで回復できることはほとんどありません。

◆人工呼吸や心臓マッサージそのものが患者さんにとっては苦痛となる可能性があります。

◆事前に主治医や看護師と話し合っておきましょう。



患者さん・ご家族のご希望

人工呼吸や心臓マッサージを

☐ 希望する ☐ 希望しない ☐ 今は決められない

年 月 日

<人工呼吸器をつけるということは>

気管を切開して管を入れて、呼吸の管理を機械で行います。一度つけると外すことはできません。会話も出来ず眠らせることとなります。人工呼吸器のリスクとしては、肺炎などの感染症、強制換気による肺障害（気胸など）などが、起こる可能性があります。

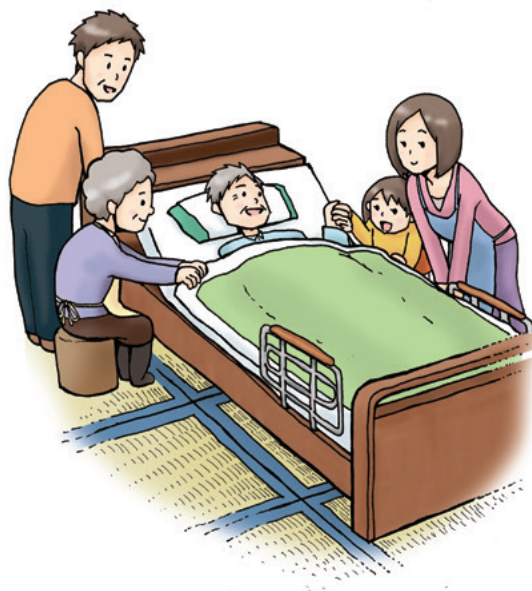
疲れてクタクタになってしまった

- ◆介護者の方が休養をとるための、ショートステイの利用、入院なども出来ますので、主治医、看護師、ケアマネジャーにご相談ください。
- ◆日中患者さんが休まれているときは、それに合わせてお休みください。



在宅か入院か

- ◆家で最期まで過ごされるか入院するかは、いつでも変更できます。
- つらい思いをしているのであれば、在宅と決めたからといって我慢されることはありません。
- 主治医、看護師にご相談ください。**
- (ただしベッドの空き具合などによっては、即時希望通りに応じかねる場合がありますのでご了承ください。)



緊急連絡先

主治医

電話番号

訪問看護師

電話番号

✕ 毛

札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会

とよひら・りんく

www.toyohiralink.jp